第 92 回日本薬理学会年会

開催趣意書
協賛のお願い

会　期：平成 31 年（2019 年）3 月 14 日（木）～　16 日（土）

会　場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

年会長：金井 好克

（大阪大学大学院医学系研究科 生体システム薬理学 教授）

2018.09.05 版

ご　挨　拶

謹啓　貴社におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、「第 92 回日本薬理学会年会」を 2019 年 3 月 14 日（木）・15 日（金）・16 日（土）の三日間、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において開催する運びとなりました。

薬理学は従来、ゲノムから個体まで、生体の全てを研究対象としながら、生命現象の探求、病態の解明、薬物治療の基盤確立、新薬の創製と育薬に、そして近年では、組織再生などの先端医療により、基礎と臨床が横断的に関わり合う基盤的総合科学として、医学・薬学の分野に広く貢献して参りました。さらなる医療の充実と発展のため、薬理学の重要性は日増しに高まっています。加えて、本年 7 月には、世界の薬理学研究者を迎え、国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）を 37 年振りに日本で開催し、その大きな成果のもとに日本の薬理学はこれまでにない盛り上がり見せています。

日本薬理学会年会は、昭和 2 年より開催されている薬理学の更なる発展を目指した歴史ある学術集会です。第 92 回年会は、WCP2018 の成果を引き継ぐ年会として、日本の薬理学がその特色を再認識し、それを生かしてさらなる発展に向けて、国際的、学際的、産学官の協奏のなかで新たな薬理学を創生していく出発点となる重要な位置付けの年会となります。本年会のこのような使命を全うすべく、年会テーマを「創造と協奏 ～薬理学の新たな地平を拓く～　— Concerto on science and innovation toward new horizon of pharmacology —」といたしました。日本の薬理学が、国際社会の中での位置付けをさらに高め、生命科学の諸分野をリードし、産学官の共同体制のなかでさらなる医療の充実と発展に寄与していくために、国際的、学際的、産学官の協奏のなかで新たな薬理学を創造していく方向性を定めることが求められます。WCP2018 を契機に、日本の薬理学がその歴史のなかで培ってきた独自性を再認識し、それをさらに発展させつつ、新たな薬理学の展開に向けた方向性を、「創造」と「協奏」のキーワードのもとに、本年会のなかで位置付けていきたいと考えます。

近年、「創薬」が国策として注目されるようになり、ますます薬理学の重要性が高まってきています。この機運を生かすために、京都大学医学研究科成宮周教授、大阪大学免疫学フロンティア研究センター審良静男教授をプレナリーレクチャーにお迎えするほか、生命科学分野、創薬科学分野の第一線で活躍されている先生がたを特別講演者に迎え、企画シンポジウムでは、さらに、新分野創生、他の生命科学分野・医療分野との連携、国際連携、産学官連携、ダイバーシティ推進、薬理学教育、薬理学人材育成などの視点も重視していきたいと思っております。また、中断していました日韓薬理学セミナーを年会セッションとして再開の予定です。次世代の薬理学を担う学生・若手研究者にとっても、サイエンスを楽しみ、薬理学に自身の将来の活躍の場を見いだせるような年会を目指したいと思います。

なお、本年会への参加者を 2,300 名と見込んでおります。開催にあたりその運営は極力簡素化し、参加者の会費にて運営をすべく努めておりますが、本年会の内容をさらに充実させ、円滑な運営を行うには、関係者各位の格別なご支援を仰がざるを得ない実状であります。

つきましては、皆様のご支援、ご協力をもちまして、本年会の成功を確たるものに致したく、ここに貴社からの絶大なるご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げる次第でございます。

時節柄、厳しい経済環境にありますことは、重々承知しておりますが、本年会開催の趣旨をご理解いただき、格別のご高配を以てご協賛とご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

末筆ながら、貴社の益々のご清栄を心より祈念申し上げます。

謹　白

2018 年 9 月吉日

第 92 回日本薬理学会年会
年会長　　金井　好克
（大阪大学大学院医学系研究科 生体システム薬理学　教授）

開　催　概　要

◇会議名称　　第 92 回日本薬理学会年会（ホームページ：http://pharmacology.main.jp/92nenkai/）

◇テーマ　　「創造と協奏 ～薬理学の新たな地平を拓く～
— Concerto on science and innovation toward new horizon of pharmacology—」

◇会　期　　2019 年 3 月 14 日（木）・15 日（金）・16 日（土）

◇会　場　　大阪国際会議場（グランキューブ大阪）
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-51

◇主　催　　公益社団法人　日本薬理学会

◇年会長　　金井　好克（大阪大学大学院医学系研究科 生体システム薬理学）

◇年会事務局　第 92 回日本薬理学会年会 事務局
大阪大学大学院医学系研究科　生体システム薬理学内
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2
Tel：06-6879-3521・Fax：06-6879-3529

◇お問い合わせ 第 92 回日本薬理学会年会　運営事務局
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン内
〒541-0056　大阪市中央区久太郎町 2-1-25　JTB ビル 7 階
Tel：06-4964-8869・Fax：06-4964-8804・E-mail：jps92@jtbcom.co.jp

◇第 92 回日本薬理学会年会　組織委員名簿（敬称略・50 音順）

顧　問	赤池 昭紀	京都大学名誉教授/和歌山県立医科大学客員教授
	岩尾　洋	大阪市立大学名誉教授/四天王寺大学学長
	馬場 明道	大阪大学名誉教授/兵庫医療大学学長
組織委員	石井　優	大阪大学大学院医学系研究科 免疫細胞生物学
	今井 由美子	医薬基盤・健康・栄養研究所 感染病態制御ワクチンプロジェクト
	上原　孝	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬効解析学
	大野 行弘	大阪薬科大学薬学部 薬品作用解析学
	金子 周司	京都大学大学院薬学研究科 生体機能解析学
	金田 勝幸	金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学
	川畑 篤史	近畿大学薬学部 病態薬理学
	倉智 嘉久	大阪大学大学院医学系研究科 分子細胞薬理学

小山　豊　神戸薬科大学薬理学
田熊 一敞　大阪大学大学院歯学研究科 薬理学
田中 秀和　立命館大学生命科学部生命医科学科薬理学
徳山 尚吾　神戸学院大学薬学部 臨床薬学
冨田 修平　大阪市立大学大学院医学研究科 分子病態薬理学
西堀 正洋　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 薬理学
西山　成　香川大学医学部 薬理学
萩原 正敏　京都大学大学院医学研究科 形態形成機構学
橋本　均　大阪大学大学院薬学研究科 神経薬理学
原　英彰　岐阜薬科大学 薬効解析学
藤尾　慈　大阪大学大学院薬学研究科 臨床薬効解析学
古屋敷智之　神戸大学大学院医学研究科 薬理学
前田 定秋　摂南大学薬学部薬物治療学
松原 和夫　京都大学医学部附属病院薬剤部
森　泰生　京都大学大学院工学研究科 合成・生物化学
山田 清文　名古屋大学大学院医学系研究科 医療薬学・医学部附属病院 薬剤部

◇参加者数　2,300名（予定）

プレナリーレクチャー

成宮 周（京都大学大学院医学研究科）
「薬物を用いて探る生体の謎：薬理学の冒険」
審良 静男（大阪大学免疫学フロンティア研究センター）
「RNA 結合蛋白と炎症」

特別講演

Julio M. Fernández (Columbia University, USA)
"Titin folding powers muscle contraction"
Susan G. Amara (National Institute of Mental Health, NIH, USA)
Kenton J. Swartz (National Institute of Neurological Disorders and Stroke, NIH, USA)
"Structural basis of temperature sensing in vanilloid sensitive TRPV channels"
濡木 理（東京大学大学院理学系研究科）
中山 敬一（九州大学生体防御医学研究所）
富永 真琴（自然科学研究機構生理学研究所）
「温度感受性 TRP チャネルの生理機能と創薬ターゲットとしての意義」
内川 治（東和薬品株式会社）
「ケミストが挑んだ新薬創製のドラマ」
今泉 祐治（名古屋市立大学大学院薬学研究科）
「創薬標的としてのカリウムチャネルとカルシウムシグナル制御」
橋本 均（大阪大学大学院薬学研究科）
「脳疾患の病態解析と創薬へ向けたアンバイアス全脳イメージ解析」

年会企画シンポジウム

医療ビッグデータに基づく薬理学研究
ネットワーク・オミクス解析によるデータ駆動型創薬研究

公募シンポジウム

シグナル受容器・一次繊毛を標的とした薬理学研究の展望
必須微量金属研究のパラダイムシフト
健康寿命の延伸に向けた生活習慣病と癌研究の新展開
化学療法誘発性末梢神経障害の発症機序と対策：最新の研究動向
若手研究者による難治性神経変性疾患克服への新たなアプローチ
Central Neuro-Uro-Pharmacology 研究最前線
硫化水素をはじめとした生理活性イオウ研究の新展開
排尿障害治療薬の最新の知見
脳-免疫連関におけるプリン作動性シグナルの薬理
アクチン細胞骨格から挑む疾患メカニズム～次世代治療法の創出を目指して～
アレルゲン免疫療法の薬理学
プレシジョン・メディシンの実現を目指したリバーストランスレーショナルリサーチ
イオンチャネル・トランスポーターを標的としたがん創薬研究の新展開
Cardio-oncology の潮流と新たな展開
薬物依存性形成メカニズム解明に対する薬理学的アプローチによる最新研究
網膜変性疾患や視覚障害を標的とした新規治療戦略を目指して
先端的バイオ医薬品を目指した薬理学研究の新たな展開
感染・炎症システムを対象とした定量生命科学研究の最前線と創薬への新展開
最先端プローブによる細胞外微小環境のシグナル計測
ＮＯ研究の最近の動向
加齢に伴う脳機能低下と予防・治療戦略－生理的老化から病的老化まで
心・肺病態における炎症・リモデリングの新しい知見
ユニークな天然物資源を活かした、地域産業、国際化、医療に貢献する薬理学研究
再生医療研究における新規治療戦略の展開と創薬
筋のホメオスタシスとその異常による疾患
難治性疼痛の治療戦略ターゲットとしてのアストロサイト・ニューロン乳酸シャトル
疾患脳を紐解くハイスループットな行動解析研究の新潮流
痛覚伝達システム研究の新展開
低酸素誘導因子（HIF）を標的とした創薬研究の新展開　−PHD 阻害薬の応用と展望−
iPS 心筋を用いた創薬研究 ~最先端イメージング技術・AI 導入により加速するプラットフォーム構築と実用化に向けた課題

薬理学教育シンポジウム

これからの薬理学教育を考える
医学部薬理学を取り巻くカリキュラム水平・垂直統合の可能性（仮）
与薬の実践者である看護師に必要な薬理学教育とは-看護師・薬剤師・医師それぞれの立場から-

JPSサテライトシンポジウム

革新的創薬のための薬理学研究最前線

次世代の会主催シンポジウム

神経調節因子による脳機能の調節とその破綻
大脳皮質における感覚情報処理とその異常

企業企画シンポジウム

日本薬理学会・日本毒性学会共催シンポジウム

神経毒性研究の新展開：神経障害の発症メカニズムと評価法の先端研究

日本薬理学会・日本組織細胞化学会共催シンポジウム

薬理学研究に使える形態学的手法の基礎

日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム

日本薬理学会・日本リウマチ学会共催シンポジウム

免疫薬理学－免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割

ダイバーシティ推進シンポジウム

江橋節郎賞・学術奨励賞　受賞講演
JPS-ASPET Lecture
Lorraine J. Gudas (Cornell University, USA)
"Combining Pharmacology and Genetics to Study and Treat Human Diseases"
日韓合同セッション（特別講演、研究発表）
看護薬理学セミナーカンファレンス
レギュラトリーサイエンスセミナー
アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンス
IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会
IUPHAR薬物標的・創薬標的データベース・電子教科書を使ってみませんか
創薬オープンイノベーション
ランチョンセミナー
学術評議員会・通常総会
若手研究者キャリア形成支援プログラム

◇開催計画

プログラムの構成と日程（予定）

<table>
<tr><th>日　程</th><th>午　前</th><th>昼</th><th>午　後</th><th>夜</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3月14日
（木）</td><td>開会式
特別講演
シンポジウム
一般演題（口頭発表）</td><td>共催ランチョン
セミナー</td><td>プレナリーレクチャー
特別講演
シンポジウム
一般演題（口頭発表）
他学会との共催シンポジウム</td><td>学術評議員会
通常総会
若手セッション</td></tr>
<tr><td colspan="3">一般演題（ポスター発表）機器・製品・技術等展示、書籍展示、簡易企業展示、就職支援ブース、テクニカルプレゼンテーション、
創薬オープンイノベーション、ホスピタリティールーム</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">3月15日
（金）</td><td>ASPET 招聘レクチャー
特別講演
シンポジウム
ワークショップ
企業企画シンポジウム
一般演題（口頭発表）</td><td>共催ランチョン
セミナー</td><td>プレナリーレクチャー
江崎節郎賞受賞講演
学術奨励賞受賞講演
シンポジウム
一般演題（口頭発表）
次世代の会主催
シンポジウム</td><td>懇親会</td></tr>
<tr><td colspan="3">一般演題（ポスター発表）機器・製品・技術等展示、書籍展示、簡易企業展示、就職支援ブース、テクニカルプレゼンテーション、
創薬オープンイノベーション、ホスピタリティールーム</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">3月16日
（土）</td><td>特別講演
シンポジウム
ワークショップ
企画シンポジウム
一般演題（口頭発表）
次世代の会主催
シンポジウム
日韓・合同セッション</td><td>共催ランチョン
セミナー</td><td>特別講演
シンポジウム
JPS サテライト
シンポジウム
一般演題（口頭発表）
市民公開講座
閉会式
優秀発表賞表彰式</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">一般演題（ポスター発表）機器・製品・技術等展示、書籍展示、簡易企業展示、就職支援ブース、テクニカルプレゼンテーション、
創薬オープンイノベーション、ホスピタリティールーム</td><td></td></tr>
</table>

◇拠出いただきました協賛金について、日本製薬工業協会の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づき「共催企業と医療機関及び医療関係者との関係の透明性に関する指針」に従い、学会等の会合開催にかかる費用を公開することについて了承致します。

寄 付 金 募 集 要 項

1. 寄付金の名称　　第 92 回日本薬理学会年会
2. 寄付金目標額　　3,000,000 円（日本製薬団体連合会からの寄付金は含みません）
3. 募集期間　　平成 30 年（2018 年）2 月から平成 31 年（2019 年）3 月 29 日まで
4. 募集対象　　日本製薬団体連合会、各種医療関係団体・企業、個人
5. 寄付金の用途　　第 92 回日本薬理学会年会開催のための事前準備費、及び当日運営費に充当
6. 寄付金のお申込み・お振込み先

   添付の寄付申込書に必要事項をご記入の上、
   下記まで郵送、または FAX にてお送りください。

   <お申込み先>　第 92 回日本薬理学会年会事務局
   大阪大学大学院医学系研究科　生体システム薬理学内
   事務担当：藤崎由紀子
   〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2
   Tel：06-6879-3521・Fax:06-6879-3529

   <お振込み先>　三菱東京 UFJ 銀行　茨木支店（ｲﾊﾞﾗｷ）店番号 219
   普通預金口座 0285326
   第 92 回日本薬理学会年会　年会長　金井　好克
   （ﾀﾞｲｷｭｳｼﾞﾕｳﾆｶｲﾆﾎﾝﾔｸﾘｶﾞｯｶｲﾈﾝｶｲ ｶﾅｲｲﾖｼｶﾂ）
7. 税法上の取扱い

   本学会は平成 24 年 1 月 4 日付で「公益社団法人 日本薬理学会」となりました。
   「公益社団法人」は新しい認定基準により公的に認められた公益性の高い法人であり、
   本学会への寄付金は所得税や法人税などに対する優遇措置の対象となります。
   個人から本学会への寄付 金は、所得税における公益社団法人等寄付金特別控除の対象と
   なります。ご寄付下さった個人の方の居住地によっては、個人住民税につきましても
   控除対象となる場合があります。また、法人から本学会への寄付金は、特定公益増進法人に
   対する寄付金として認められ、別紙にお示しした金額を一般の寄付金とは別枠で損金の額に
   算入できます。
8. 寄付金拠出の公開

   本学会は、寄付金を拠出いただいた法人が日本製薬工業協会の定める「企業活動と医療機関
   等の関係の透明性ガイドライン」に従い、ウェブサイト等を通じて本学会に対して寄付金を
   拠出した事実を公開されることに同意いたします。
9. お問い合わせ先

   第 92 回日本薬理学会年会　運営事務局
   株式会社 JTB コミュニケーションデザイン内
   〒541-0056　大阪市中央区久太郎町 2-1-25　JTB ビル 7 階
   Tel：06-4964-8869・Fax：06-4964-8804・E-mail：jps92@jtbcom.co.jp

第92回日本薬理学会年会
寄附申込書

申込期日：2019年3月29日（金）必着

送信先：第92回日本薬理学会年会　事務局　御中
FAX：06-6879-3529・E-mail：jps92@pharma1.med.osaka-u.ac.jp

年　　　月　　　日

第92回日本薬理学会年会
　年会長　金井好克　殿

金　　　　　　　　　　　　　円也

趣旨に賛同し、上記の金額を第92回日本薬理学会年会の準備、及び運営資金として寄附致します。

フ リ ガ ナ		
御社（団体）名		
代 表 者 名		
ご 住 所	〒＿＿＿＿-＿＿＿＿＿	
ご 担 当 者	ご担当者住所：※上記と異なる場合のみご記入ください。 〒＿＿＿＿-＿＿＿＿＿	
	ご担当者部署名：	
	ご担当者名：	
	Phone：	Fax：
	E-mail：	
振 込 予 定 日	月　　　　日頃振込みます。	
印刷物などの掲載希望の有無	プログラム集など印刷物に「協賛一覧」として、貴社（団体）名を掲載させていただく場合がございます。掲載希望の有無について、どちらかにチェックを入れてください。 ☐ 希望する　⇒　▫ 上記の社（団体）名と変更なし 　　　　　　　　▫ 右記の通り変更 （＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿） ☐ 希望しません	

※入金確認を致しますので、申込書は必ず下記へご送付くださいますようお願い申し上げます。
※本書にご記入いただきました個人情報は、本会の運営に関する目的以外には、利用致しません。
また、第三者への開示は、致しません。

<お振込み先>　三菱東京 UFJ 銀行　茨木支店(ｲﾊﾞﾗｷ)　　店番号 219
普通預金口座　0285326
第 92 回日本薬理学会年会　年会長　金井　好克（ﾀﾞｲｷｭｳｼﾞｭｳﾆｶｲﾆﾎﾝﾔｸﾘｶﾞｯｶｲﾈﾝｶｲ ｶﾅｲﾖｼｶﾂ）

2018.09.05 版

2018.09.05 版